

# 第1回全体会 意見対応表(案)

参考資料1

素案修正箇所は赤字

No.	全体会 ／部会	区分	意見	意見に対する市の考え方	対応する文章
1	全体会	基本構想	「心の豊かさ」は抽象的なので、市民の理解を促すため国の示すウェル・ビーイングの概念などを参考に説明を工夫してはどうか。	ご意見をふまえ、ウェル・ビーイングの概念を参考に、右のとおり修正します。	P6 基本構想 2まちづくりの理念 これからのまちづくり 「心の豊かさを測るものさしは、一人一人の価値観や、 <b>身体的・精神的・社会的な状態</b> によって異なるものですが、心豊かな暮らしを送るためには、明るい未来が展望できる、将来への安心感が <b>欠かせません</b> 。」
2	全体会		環境の重要性が年々高まる中、単に自然と共存するのではなく、里山・里海・里潟のように市民と自然が共生するとともに、田園とともに自然をベースにしたまちづくりを目指していくといった方向性を打ち出していったほうが、新潟市の独自性が明確になるのではないか。	この計画において、「都市」には、インフラや建物の他、そこに生きる人々も、「田園」には、田畑だけでなく田園地域が有する豊かな自然を含めて記載しています。新潟市のまちづくりにおいて、自然を含む田園がいかに重要であるかについては、基本構想等に記載していますが、加えて、ご意見をふまえ都市や人と自然などとの共生について、右のとおり修正します。	P8 基本構想 3目指す都市像  三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージ ◎豊かな環境 「◆ゼロカーボンシティ、循環型社会に向けたまちづくりが進み、自然環境と調和し <b>共生</b> しています」  P52 3 新潟市の強み (1) 新潟市の強み ① 都市と田園の調和によりもたらされる暮らしやすさ 豊かな自然・田園環境と生物多様性 「越冬数日本一を誇るコハクチョウをはじめ、豊かな自然の中で暮らす多様な生物と <b>共生</b> しています。」  「令和4(2022)年5月には、潟をはじめとする湿地に関する取組が国際的に評価され、ラムサール条約の湿地自治体に国内で初めて認証されました。」  「このように、新潟市は、都市部から一足伸ばせば豊かな自然との共生を五感で感じることができます。都市と田園がバランスよく <b>共生</b> ・共栄しており、都会と田舎の良さを併せ持つ、暮らしやすいまちであることが、新潟市の最大の特色です。」  P76 5 重点戦略 (2)重点戦略 重点戦略1 コンパクトなまちづくりの推進 「都市と田園・自然が調和・ <b>共生</b> し、多様な個性や魅力があふれる地域の集合体であるという新潟市の強みを活かし、多核連携型のまちづくりに取り組みます。」  P181 6 各分野の政策・施策 (2)各分野の政策・施策 政策14 新潟市の現状/将来を見据えた課題 「都市と田園が調和・ <b>共生</b> している都市構造は新潟市の大きな特徴です。豊かな田園や自然に包まれた集落の維持・活性化が求められています。」  P183 6 各分野の政策・施策 (2)各分野の政策・施策 政策14 施策1 ①コンパクトなまちづくりの推進 「都市と田園・自然が調和・ <b>共生</b> し、多様な個性や魅力があふれる地域の集合体であるという新潟市の強みを活かし、多核連携型のまちづくりに取り組みます。」  P235 7 区におけるまちづくりの方向性 (2)区ビジョン基本方針 中央区 目指す区のすがた 「水と緑に囲まれた自然と都市が <b>共生</b> するまち」

No.	全体会 ／ 部会	区分	意見	意見に対する市の考え方	対応する文章
3	全体会		<p>目指す都市像は、総合計画の核心となる部分であるため、もう少し記載を追加する必要があるのではないか。また、1)ラムサール条約の湿地自治体に認定されたこと、2)「都市と田園の好循環」をテーマにしたSDGs未来都市に選定されたこと、3)新潟都心地区が「都市再生緊急整備地域」に指定されたことについては、目指す都市像の背景で重要であるので明記し、この部分の 他、他の箇所でもアピールした方が良いのではないかと。</p>	<p>ご意見のとおり、総合計画の核心となる目指す都市像について、理解・共感いただくことは重要と考えており、そのためには目指す都市像とはどのようなまちかをイメージしていただく必要があると考えています。したがって、P8「三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージ」において、都市像が実現した際のまちの姿や暮らしをよりイメージしやすいよう箇条書きで記載しており、これらが、目指す都市像を説明する記載であると考えています。</p> <p>なお、上記の考えがより伝わりやすくなるよう、P8の見出しおよびその説明文章について右のとおり修正します。</p> <p>ラムサール条約の湿地自治体への認定、SDGs未来都市への選定、都市再生緊急整備地域への指定については、ご意見をふまえ、右のとおり記載します。</p>	<p>P8 基本構想 3目指す都市像 <b>目指す都市像のイメージ</b> <b>「新潟市が目指す都市像について、「経済」、「社会」、「環境」の三側面ごとに、そのイメージを記載します。」</b></p> <p>P37 2 新潟市を取り巻く状況 (1)新潟市のあゆみ 新しい時代のまちづくり 「また、令和3(2021)年9月には新潟都心地域が都市再生緊急整備地域に指定され、周辺において築50年以上の民間ビルの建て替えなどの動きも活発化しています。」</p> <p><b>「令和4(2022)年5月には、潟をはじめとする湿地に関する取組が国際的に評価され、ラムサール条約の湿地自治体に認定されました。また同月、「都市と田園の好循環」をテーマとした提案により、SDGs未来都市に選定されました。」</b></p> <p>「新型コロナウイルス感染症により、新潟市民の生活・経済・社会など様々な面に影響が及び、人々の意識や価値観、社会が変化する中、まちづくりの大きな転換期を好機として、<b>豊かな自然環境を有する田園地域と都市部が調和する新潟市の強みを活かし</b>、さらなる発展につなげる取組を進めています。」</p> <p>P73 5 重点戦略 1都市機能の充実と拠点性の向上 戦略展開の方向 「これまで進めてきたJR新潟駅の約60年ぶりのリニューアルと新潟駅周辺整備により、鉄道を挟んだ南北市街地がつながり、新潟駅周辺から万代、古町を結ぶ都心軸が生まれ変わります。そして、「にいがた2km」と名付けた都心エリアでは、<b>都市再生緊急整備地域の指定を機に</b>民間事業者による再開発の動きが活発化するなど、「まちづくりの大きな転換期」を迎えています。」</p> <p>P92 5 重点戦略 9脱炭素・循環型社会の実現 戦略展開の方向 <b>「ラムサール条約の湿地自治体として国内で初めて認定された新潟市の強みである</b>、日本海、2つの大河、16の潟などの水辺空間や豊かに広がる田園・里山など、多様で美しい自然環境を将来世代に引き継ぐためには、脱炭素・循環型社会の実現に向けた戦略展開が重要です。」</p> <p>P215 持続可能な行財政運営 3多様な主体との連携 施策1 SDGsを共通言語とした連携の推進 <b>「SDGs未来都市に選定されたことを契機に</b>、各分野の政策・施策を推進するにあたり、SDGsを共通言語として市民・民間事業者・国・県・他市町村など、多様な主体とパートナーシップを築いていくとともに、SDGsの普及啓発にも努めていきます。」</p>
4	全体会	基本構想	<p>「これからのまちづくり」の一部で、一般論と新潟市のまちづくりの話が混在しているため、両者を区別し、論旨が明確になるよう工夫したほうが良いのではないかと。</p>	<p>「新潟市の現状・時代の潮流」で記載した、全国的な時代潮流を背景に、心の豊かさの重要性が高まっており、心豊かな暮らしには、(一般論として)明るい未来が展望できる将来への安心感が不可欠であると認識しています。</p> <p>だからこそ、新潟市においては、活力あふれるまちを築き、それを将来にわたって持続させる必要があり、そのためにも持続可能な開発目標であるSDGsの考え方を踏まえたまちづくりが必要だと考えています。</p> <p>ご意見を踏まえ、一般論と新潟市のまちづくりが混在しないよう、右のとおり修正します。</p>	<p>P6 基本構想 2まちづくりの理念 これからのまちづくり 「だからこそ、<b>新潟市においては、活力あふれるまちを築き</b>、それを将来にわたって持続させていかなければなりません。そのためには、SDGsの考え方を<b>踏まえ</b>、「経済」、「社会」、「環境」の三側面の調和を図りつつ、それぞれの側面の豊かさを高めることが重要です。」</p>

No.	全体会 ／部会	区分	意見	意見に対する市の考え方	対応する文章
5	全体会	基本構想	これからのまちづくりは、市民及び多様な主体とのパートナーシップが、中核的な推進力となることをわかりやすく示した方が良いのではないか。	ご意見をふまえ、右のとおり修正します。	P6 基本構想 2まちづくりの理念 これからのまちづくり 「人口減少時代において、『活力あふれるまちづくり』と『持続可能なまちづくり』を重ね合わせて推進するためには、 <b>市民の新潟への誇りと愛着を育むとともに、市民や民間事業者を含め、多様な主体とのパートナーシップのもと</b> 、新潟市の強みを最大限に活かしながら、総力を挙げて取り組む必要があります。」
6	全体会	基本構想	三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな社会」の項目について、高齢化社会に対応した地域の医療や健康、福祉、介護の充実をもう少し強調した記載としてはどうか。	ご意見をふまえ、右のとおり修正します。	P8 基本構想 3目指す都市像 目指す都市像のイメージ 豊かな社会 「◆ 人権や多様性を尊重し、互いに支え合いながら、 <b>健康で、安心して暮らしています</b> 」
7	全体会	基本構想	三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな社会」の項目について、ワーク・ライフ・バランスの範囲を子育てと仕事のみ限定しない方が良いのではないか。	ご意見をふまえ、右のとおり修正します。	P8 目指す都市像 目指す都市像のイメージ 豊かな社会 「◆ <b>いきいきと働きながら、地域活動や子育てができたり、家族や友人との充実した時間が持てるなど、楽しく過ごしています</b> 」
8	全体会	人口ビジョン	「新潟市の現状・時代の潮流」の部分における、新潟市の現状の記載について、課題を明確にする上にも、強みだけでなくネガティブな現状も記載してはどうか。	「まちづくりの理念」の「新潟市の現状・時代の潮流」においては、前段では本市の現状について、後段では全国的な時代の潮流について、その事実を説明する構成としており、人口減少については、新潟市も含めた全国的な課題として後段部分に記載しています。  なお、ご意見のとおり、新潟市の人口減少の状況についてもしっかりと記載する必要があると考えていることから、基本計画の冒頭、1総論、(1)人口ビジョンにおいて詳細の分析を記載しています。	P13-16 1 総論 (1)人口ビジョン ①人口の現状分析 ②人口の将来展望
9	全体会	人口ビジョン	市レベルの人口減少が、社会保障に及ぼす影響が大きいことについて示してはどうか。	ご意見のとおり、人口減少に伴う社会構造の変化により、新潟市においても社会保障に大きな影響が及ぶ恐れがありますので、ご意見をふまえ、右のとおり記載します。	P26 1 総論 (1)人口ビジョン 人口減少段階の分析を踏まえた今後の方向性  「少子・超高齢社会の進行と若者層の東京圏流出などにより、人口の減少が見込まれるなか、特に生産年齢人口の減少は、労働力の不足、地域経済の縮小、地域を支える担い手の減少といったかたちで、企業活動や市民生活に様々な経済的・社会的影響をもたらすことが懸念されます。 また、人口減少が <b>続き、世代間バランスが変化</b> することで、インフラをはじめとする都市機能や、 <b>社会保障など</b> 日常生活を支える各種サービスの維持が難しくなります。こうした <b>社会の機能</b> などが維持できなくなることで、都市の魅力や活力を低下させ、更なる人口減少を招く恐れがあります。 人口が増加し続けていた時代から転じ、人口が減少していくこれからの時代においては、人口減少を和らげる施策や取組に加え、人口減少社会に適応していくための施策を展開する必要があります。」
10	全体会	将来想定される変化・課題を見据えた政策展開	総務省の自治体戦略2040構想委員会の課題に対応する新潟市の課題を記載できないか。	「6(2)各分野の政策・施策」では、それぞれの政策について「新潟市の現状／将来を見据えた課題」を記載しています。 その中で、自治体戦略2040構想などを参考に、新潟市において将来想定される変化・課題についても記載していることから、ご意見を踏まえ、そのことがわかるように右のとおり記載します。	
11	全体会	将来想定される変化・課題を見据えた政策展開	バックカスティングの視点に基づいた施策展開であることをもっと意識したものにしてもらいたい。	「6(2)各分野の政策・施策」では、それぞれの政策について「新潟市の現状／将来を見据えた課題」を記載しており、それを踏まえた施策を記載しています。ご意見を踏まえ、そのことがわかるように右のとおり記載します。  なお、今後実施計画や分野別計画などにおいて施策を具体化する際にも、同様にバックカスティングの視点を意識することで、将来想定される変化・課題に対応した取組を進めていきます。	P28 1 総論 (2)将来想定される変化・課題を見据えた政策展開 「そのため、本計画では <b>バックカスティングを意識し、「6 各分野の政策・施策」において、現在直面している課題だけでなく将来にかけて想定される変化・課題も見据えながら、それを克服するために現時点から取り組む政策・施策について記載します。</b> 」



No.	全体会 ／ 部会	区分	意見	意見に対する市の考え方	対応する文章
12	全体会	土地利用 方針	自然環境の活用に関しては、ラムサール条約の精神であるワイズ・ユース(賢明な利用)の考え方を踏まえた記述としてはどうか。	ご意見をふまえ、右のとおり修正します。	P30 1 総論 (3)土地利用方針 方針の実現に向けた考え方 考え方1 「また、新潟市の特徴である広大な田園や海・河川・里山・里湯などの自然環境の保全・ <b>賢明な利用</b> に努め、それらを支える田園集落の維持活性化を図ることにより、田園・自然を市民共通の財産として守り育みます。」
13	全体会	時代の潮流	SDGsの原文に基づき、「誰一人取り残さない」ではなく「誰一人取り残されない」と記載してはどうか。	ご意見をふまえ、右のとおり修正します。	P49 2 新潟市を取り巻く状況 (2)時代の潮流 ⑦多様性を認め合い共に生きる社会への意識の高まり 「SDGsは <b>誰一人取り残されない社会を実現することを理念に掲げています</b> 。また、持続可能な開発の3要素には「社会的包摂」「環境保護」「経済開発」の調和が求められているほか、目標17として「パートナーシップで目標を達成しよう」が掲げられおり、多様な人々が力を合わせて持続可能な社会を作っていくことは、世界が共通して取り組むべき方向性となっています。」
14	全体会	新潟市の 強み	今後の状況を見据え「生態系の保全」を「生物多様性の保全」に修正してはどうか。	ご意見をふまえ、右のとおり修正します。	P55 3 新潟市の強み (1)新潟市の強み ③全国トップクラスの農業力 「田園部は、農地の持つ防災・減災機能や <b>生物多様性</b> の保全、優れた農村景観の形成などの多面的機能を発揮しています。市域の25%が海拔ゼロメートル地帯の低平地となっている中、大規模な農業用排水機場が24時間365日稼働することで、農地の保全のみならず、市民生活や都市機能の維持に大きく貢献しています。」
15	全体会	政策施策 の全体像	成果指標の設定に際しSDGsの関連を意識することだが、SDGsの指標に矛盾する部分もあると考えられるので、あまり偏らないほうが良いのではないか。	国のSDGs実施指針改定版において、地方自治体に対して「SDGsの取組を的確に測定すること」や「ローカル指標の設定等を行うこと」が期待されています。  そのため、次期総合計画の成果指標の設定にあたっては、SDGsの各ゴールとの関連性を意識しながら設定することで、総合計画の進捗を測るとともに、上記「ローカル指標」として本市のSDGsの進捗を測るものとしても機能するようにします。  なお、ご意見のとおり、指標同士の関係を見ると両立が難しいものもあることから、政策・施策を推進する際には、他分野へのトレードオフ(代償)をできるだけ小さくすることを意識するよう、各分野共通の視点として右のとおり記載しています。	P68 4 政策・施策の全体像 (1)④政策・施策を推進する5つの視点 視点1 経済・社会・環境の三側面に配慮する 「各分野において脱炭素化の推進を意識するなど、経済・社会・環境の三側面への影響に配慮して、他分野へのトレードオフ(代償)をできるだけ小さくしつつ、また、他分野とのシナジー(相乗効果)を生み出すことを念頭に置きながら施策を推進します。」
16	全体会	政策・施策 の全体像	総合指標の④「将来世代のことも大切に持続可能なまちづくりが進んでいると思う市民の割合」は、複数の観点が入り混じっていることに加え、現在世代が自分ごととして捉えづらい。「将来世代に引き継ぐ目線で見た新潟市の評価」という趣旨より、「新潟市を将来世代に引き継いでいけると思う市民の割合」としてはどうか。	次期総合計画では、SDGsを推進することに加えて、人口減少社会に適応していくことが重要であると考えており、そのような持続可能なまちづくりを進めるうえでは、選択と集中による市債残高の縮減や、公共施設の再編など、現在世代と将来世代の利害がぶつかるテーマについても対応していく必要があります。  現在世代が住み続けられるだけでなく、将来世代も住み続けられる新潟市を築くためには、私たち現在世代が将来世代の観点に立って考えることが欠かせないことから、将来世代の立場に立って考えたときに新潟市は「持続可能なまちづくりが進んでいる」と思うかどうかを指標とすることにしました。  なお、ご意見のとおり、自分以外の他者(将来世代)を意識しながら回答しなければならないという点において他の指標と比べて難しい設問になっていることから、アンケートにおいては、回答者がわかりやすいよう設問の意図を補足する説明文を加えるなど配慮しました。  あわせて、否定的な回答をした方に対しては、そのように回答した理由について尋ねる追加設問を設定しました。	

No.	全体会 ／ 部会	区分	意見	意見に対する市の考え方	対応する文章
17	全体会	政策・施策 の全体像	「活力あるまちづくり」「持続可能なまちづくり」の実現に向けて、「経済」「社会」「環境」の三側面の豊かさを調和し高めるとともに、その三側面の基盤となる「ひと=市民」に視点を当てた重点戦略を「見える化」できると、新潟市としてのオリジナリティがでるのではないか。	<p>ご意見のとおり、目指す都市像を実現するためには、市民及び多様な主体の連携・協働が欠かせません。特に本市は高等教育機関の集積により学生をはじめとする若者が多くいることから、そのような方々の力を活かすことは重要だと考えています。</p> <p>そのため、新潟市の将来を担う世代を大切にするとともに、新潟への誇りと愛着を育むことで、人材が育ち、集まり、活躍する環境をつくる。そして、そのような方々をはじめとする多様な主体と連携・協働してパートナーシップにより目標を達成する。各分野においてそのような好循環が生まれるよう、「政策・施策を推進する5つの視点」として右のとおり記載しています。</p> <p>上記の視点のもと、重点戦略においても市民の活躍や連携・協働を意識しており、重点戦略の位置付けの中で右のとおり記載しています。また、重点戦略のモデル図の中でも、市民の活躍がさらなる活力を創出するという好循環について記載しています。</p> <p>なお、重点戦略において、上記の「政策・施策を推進する5つの視点」を意識していることがわかるよう、右のとおり追記します。</p>	<p>P68 4 政策・施策の全体像 (1)④政策・施策を推進する5つの視点 視点2 新潟の将来を担う世代の思いを大切に 「現在世代だけでなく、将来世代まで心豊かに暮らし続けられるまちを築くため、子どもや若者など新潟の将来を担う世代を大切にするとともに、これから生まれてくる子どもたちにも思いを巡らせながら、施策を推進します。」</p> <p>視点3 新潟への誇りと愛着を育む 「地方分散型の社会への移行を見据えて、新潟の将来を担う人材が育ち、集まり、活躍する環境をつくるため、新潟の歴史や特色を踏まえた施策を推進し、新潟への誇りと愛着を醸成します。」</p> <p>視点4 パートナーシップにより目標を達成する 「市民、民間事業者、国・県・他市町村など多様な主体と連携・協働できる関係性を構築し、パートナーシップにより目標を達成します。」</p> <p>P71-72 5 重点戦略 (1)重点戦略について 「市民一人一人が自分らしく様々な場面で活躍し、また、人と人、地域と地域とが共につながること、新潟市にさらなる活力を生み出します。」 「そこで、<b>「4 政策・施策の全体像」に掲載した「政策・施策を推進する5つの視点」に基づき、市民をはじめ多様な主体が協働しながら総力をあげて展開する10の戦略を「重点戦略」と位置付け、ひとつの政策パッケージとして推進していきます。」</b></p>
18	全体会	重点戦略2 政策8 産業・雇用	総合指標に市民世帯当たりの平均所得を入れてはどうか。	<p>ご意見のとおり、主に経済面における豊かさを測るうえで、市民所得は重要であると考えています。</p> <p>総合指標は素案のとおりとしますが、市民所得の向上は「社会動態」や「合計特殊出生率」など総合指標の目標達成に寄与することから、重点戦略2及び政策8の政策指標として「一人当たり市民所得(市民経済計算による一人当たり市民所得)」を設定しています。</p>	<p>P78 5 重点戦略 (2)重点戦略2 地域企業の経営力強化、新たなビジネスや成長産業の創出・育成</p> <p>P151 6 各分野の政策・施策 (2)分野5 政策8 地域経済に活力を生み出す産業の振興と雇用の創出</p> <p>政策指標 「一人当たり市民所得(市民経済計算による一人当たり市民所得)」</p>
19	全体会	政策9 農林水産	新潟市の食と農の強みを生かした特色を、より多面的に情報発信していく必要がある。	<p>「3新潟市の強み ④世界に誇る豊かな食」は、新潟市が有している食と農の豊かさについて、強みとして記載していますが、新潟の農水産物と食文化を全国に発信していく取組については、政策9「施策2 農林水産業を活かしたまちづくり」において右のとおり記載しています。</p>	<p>P156 政策9 施策2 農林水産業を活かしたまちづくり ③新潟の農水産物と食文化を全国に発信 「新潟市の強みである食と花、食文化の魅力発信し、多くの人々がその魅力に触れられる機会を提供することにより、食と花の販路の拡大および都市と農村の交流を推進し、農林水産業の振興と豊かな市民生活の実現を図ります。」</p>
20	全体会	政策10 観光・交流	「国内外と結ばれた高い拠点性」は、地理的優位性と現状との間に乖離があることから、その点を踏まえた記載に修正してはどうか。	<p>「3新潟市の強み ②国内外と結ばれた高い拠点性」は、新潟市が有している広域交通基盤などの拠点性の高さについて、強みとして記載しています。ご意見のとおり、新潟空港における国際線など一部の機能については現在、一時的に休止していますが、長期的な展望のもと、拠点機能の一つとして記載しました。</p> <p>なお、感染症の拡大による航空路等への影響に関する現状や課題については、政策10「新潟市の現状/将来を見据えた課題」において右のとおり記載しています。</p>	<p>P160 政策10 新潟市の現状/将来を見据えた課題 感染症拡大による影響 「新型コロナウイルス感染症の拡大により、交流人口は大きく落ち込みました。外国人来訪者は激減し、地域経済への波及効果が高いMICEも中止・延期が続きました。」 「航空路に関しては、減便・運休が続き、増加傾向にあった新潟空港の利用者は大幅に落ち込みました。また、クルーズ船に関しても、新潟港への寄港が相次いで中止されました。」</p>
21	全体会	政策10 観光・交流 持続可能な 行財政運営	三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージの「豊かな経済」の項目に、近隣地域と連携・交流した地域活性化の視点を加えてはどうか。	<p>「三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージ」では、こうした政策・施策を展開することで実現するまちの姿や市民の暮らしのイメージを記載しています。</p> <p>なお、近隣地域と連携・交流した地域活性化の視点は重要と考えており、「政策10 観光・交流」や、「持続可能な行財政運営3 多様な主体との連携」において右のとおり記載しています。</p>	<p>P162 政策10 施策1 ② 新潟の個性・魅力と拠点性を活かした誘客の促進 「国際港・国際空港や高速道路、新幹線といった高速交通ネットワークを有する拠点性を活かし、ハイレベルな国際会合・スポーツ大会等を含むMICE誘致、および佐渡市や会津若松市をはじめとする県内外の自治体との広域連携により、誘客を促進します。」</p> <p>P216 持続可能な行財政運営 施策2 ④ 国・県・他都市との連携 ⑤ 新潟広域都市圏における連携促進</p>



No.	全体会 ／ 部会	区分	意見	意見に対する市の考え方	対応する文章
22	全体会	政策16 環境	新潟市においても生物多様性の危機が迫っていることを記述してはどうか。	当該箇所は、新潟市が都市と豊かな自然環境を併せ持っていることの強みについて記載していますが、新潟市の生物多様性に関する現状や課題については、政策16「新潟市の現状/将来を見据えた課題」において右のとおり記載しています。	P194 政策16 新潟市の現状/将来を見据えた課題 生物多様性への影響 「人々の活動や開発による動植物の個体数や生息域の減少がみられているほか、温暖化による生態系への影響が懸念されています。」 「生物多様性に悪影響をもたらすなど、世界的な課題となっている海洋プラスチック問題に向けた取組が重要です。」
23	全体会	持続可能な 行財政運 営	社会課題の解決に向け、マイナンバーカードに連携した地域共通ID創設などのデジタル化によって、新潟市内で行政サービス、地域経済、生活福祉、医療情報の一体化を目指すことを記載できないか。	デジタル田園都市国家構想基本方針(令和4年6月7日 閣議決定)において、ご意見の健康医療データ(PHR)等の活用の重要性、今後の取組方針についての記載がありますので、本市においても、国の動向を注視していきます。  また、行政の高度化に向けて、データの重要性を認識しており、その利活用については、あらゆる分野で求められているため、持続可能な行財政運営 1 施策3に記載していましたが、より分かりやすくなるよう、右のとおり修正します。	P204 持続可能な行財政運営 1 施策3 ②DXによるスマートな行政の実現 「データの重要性が増す中、行政の高度化などに向けて、市が保有するデータを利活用するための環境整備を進めます。」
24	全体会	区における まちづく りの方向性	土地利用方針の考え方と基本理念・目指す都市像・重点戦略・区におけるまちづくりの方向性ととの整合性を図る必要があるのではないか。	土地利用の方針については、計画全体における共通の考え方を示した総論の中に位置づけ、基本理念や重点戦略など、計画のあらゆる部分に考え方を反映させています。  なお、区におけるまちづくりの方向性においては、特に拠点間の連携といった考え方を明記することで、より方向性が明確になると考えますので、ご意見をふまえ、右のとおり修正します。	P220 7 区におけるまちづくりの方向性 (1)区におけるまちづくりの方向性  また、地域のことを地域自らが考え、自らが行動できることを目指し、自治基本条例の制定や、区自治協議会の設置により、地域の特性を活かした自治を進めてきました。  8つの区は、それぞれの地域を形づくってきた歴史と固有の文化、地域資源や風土に合った産業など、様々な特色と魅力にあふれています。それぞれの区の持つ特色と魅力が「新潟市」という集合体として一つになることで、「都市と田園の調和によりもたらされる暮らしやすさ」をはじめとした、新潟市の「強み」を生み出しています。人口減少時代に躍進する「活力あふれるまちづくり」と「持続可能なまちづくり」を進め「田園の恵みを感じながら 心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」を実現するためには、区の特徴を活かしたまちづくりを推進するとともに、区を超えた連携や多様な主体との協働を進め、その魅力を発展させ続けていくことが重要です。
25	全体会	区における まちづく りの方向性	区ビジョン基本方針と新潟市全体の都市構想との関連や、各区どうしの連携、全体イメージの中での区の将来像や区を横断したまちづくりなどについて記載した方が良いのではないか。	ご意見をふまえ、右のとおり修正します。	これまで以上に区の特徴を前面に押し出しながら、区の特徴を活かした活力と魅力あふれる区づくりを進められるよう、必要な予算や権限を持つ自治性の高い区役所を目指し、まちづくりの多様な主体と一体となって区政を推進していきます。
26	全体会	区ビジョン 基本方針	「東区独自の魅力を活用し区内外へ発信することにより、だれもが魅力を感じることができる街を目指します。」の記載について、魅力を感じてもらおうことで”東区としてどうなりたいのか”という観点まで記載してはどうか。	東区区ビジョン基本方針において、「目指す区のすがた」として、地域資源を活用し区内外の人々が交流や関係性を構築する取り組みを通じ、「にぎわうまち」を目指すとして右のとおり記載しています。	P230 7 区におけるまちづくりの方向性 (2)区ビジョン基本方針 東区 目指す区のすがた  活力ある産業と地域の魅力を活かしてにぎわうまち

No.	全体会 ／ 部会	区分	意見	意見に対する市の考え方	対応する文章
27	全体会	区ビジョン 基本方針	「歩きやすく自転車や公共交通で移動しやすい環境の整備」の記載について、未来を見据えて、次世代モビリティの観点も加えてはどうか。	ご意見を踏まえ、次世代モビリティの観点をもちながら、右のとおり修正します。	P234 7 区におけるまちづくりの方向性 (2)区ビジョン基本方針 中央区  目指す区のすがた  賑わいと活力あふれ訪れたい拠点のまち  「美しい景観形成に努めるとともに歩きやすく自転車や公共交通 <b>等多様な手段</b> で移動しやすい環境の整備を進め、まちなかの活性化に向けた回遊性向上を図ることにより、子どもからお年寄りまで誰もが出かけたい利便性の高い、活力に満ちたまちを目指します。」
28	全体会	区ビジョン 基本方針	「広大な越後平野には手入れの行き届いた水田や畑が広がり」という表現について整理が必要ではないか。	ご意見をふまえ、右のとおり修正します。	P253 7 区におけるまちづくりの方向性 (2)区ビジョン基本方針 西蒲区  区の特徴  「西蒲区は海・山・平野に抱かれた自然豊かな環境にあり、四季折々の魅力にあふれたエリアです。 <b>肥沃な越後平野には水田や畑が広がり</b> 、稲作を中心に、園芸作物の生産も盛んです。 また、いにしえより人々の暮らしが連続と続く歴史・文化と観光のまちでもあり、北国街道の湯治場として栄えてきた岩室温泉の他、名所、史跡も数多くあります。」